

奥浜名湖・奥山地区の断層と変位地形：
西部支部活動報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 国雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024701

奥浜名湖・奥山地区の断層と変位地形 西部支部活動報告

加藤 国雄

浜名湖北側の山地には、中生代から古生代の地層がほぼ東西に続いている。好天に恵まれた5月20日(日)、この地域の断層地形を見学する巡検会をマイカー方式で実施した。以下にその概要を報告する。

参加者は10時にJAとびあ浜松伊平支店前(廃校になった伊平小学校の前)に集合した。参加者は24名、そのうち会員は6名、非会員の多くは地元からの参加者であった。中には回覧板が回ってきたという人もいた。巡検案内は、長い間この地域の調査を続けてきた小野寺秀和会員(竜ヶ岩洞)をお願いした。



図1. 見学ルート

1. 井伊谷川河床

集合場所から井伊谷川に沿って北向きに歩き、川岸から河床とその周辺を観察した。伊平小学校のすぐ西側で、川の流れが上流から下流に向かって階段状の堰になっている所がある。落差は約2 m。付近で石英脈のずれを調査した結果、この地形は上流側が隆起した断層活動によって生じたのではないかという話であった。

2. 背山峠(うしろやまとうげ)付近

井伊谷川河床を見学してから車に分乗し、およそ西南西に移動した。背山峠の東約200 mの地点で鏡肌を観察した。もっとも、鏡肌の名に相応しいほどの光沢はない。さらに移動して峠を越えると西向きに遠くまで見渡すことができた。向かって左右両側の山が風越峠の部分で低くなっている。断層による鞍部と考えられる。

3. 背山川の沢登り

道路沿いの広い空き地に車を止め、脚立で河床に降りた。背山川の川底を北東向きに(三嶽鉦山奥山鉦業所に向かって)登ると、周りは全体が輝緑岩からなり、所々に破碎帯が見られる(図2)。



図2. 背山川の沢登り

4. 三嶽鉱山奥山鉱業所

県道 303 号線の奥山交差点を横切ってまもなく、高台で見晴らしの良い町営グラウンドに着き、清々しい新緑の中、鳥の声を聞きながら昼食をとった。その後、三嶽鉱山奥山鉱業所の敷地内に向かった。坑道は見あたらず、露天掘りで輝緑岩を採石している。非常に広い敷地(図3)の一部を見学した。輝緑岩の露頭が続き、一部には条線を伴う鏡肌があった(図4)。面の走向傾斜は $23^{\circ} E59^{\circ} SE$ と $29^{\circ} E75^{\circ} NW$ の2方向があった。



図3. 三嶽鉱山奥山鉱業所 (遠景)

5. 富幕山南側の鏡肌

最後の見学地となった露頭は富幕山南側に位置し、奥山高原と鞍骨峠を結ぶ道路から北側急斜面を5~6m登った地点であった。再び脚立を利用し、道路から急斜面を登ると、水平方向の明瞭な条線を伴う鏡肌が数m続いている。道路からは少ししか見えないが、規模が意外に大きい(図5)。



図4. 三嶽鉱山奥山鉱業所 (露頭の前で説明する小野寺会員)

6. おわりに

今回の巡検で見た露頭では背山峠付近を除き、いずれも断層運動による地層の変位があり、これらの地点を結ぶ東西性の断層の存在が推定されるという説明であった。既に知られている東西性の断層の他、その北側にもう1本の断層が存在すると示唆される。短い時間の巡検会ではあったが、奥山地区の地形を断層運動の観点から考える良い機会になった。見学地の案内に加え、資料の準備などを事前に整えて下さった小野寺会員にお礼申し上げます。



図5. 鞍骨峠北側の鏡肌